

筑波大学主催 第三回 日独通訳者養成セミナー 報告書

1) 報告者

立花 由香利 (ドイツ・ハイデルベルグ大学 会議通訳学科修士課程)

2) セミナー名

第三回 日独通訳者養成セミナー

3) 主催

筑波大学ボン事務所

責任者：相澤 啓一

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・教授

筑波大学ボン事務所 所長

4) 日時

2014年2月7日(金) 13:30 ~ 2月9日(日) 16:00

5) 場所

Heinrich Pesch Haus・Katholische Akademie Rhein-Neckar

住所：Frankenthaler Str. 22 67059 Ludwigshafen, Germany

6) 参加者人数

25人

7) セミナー概要

外部から3人の講演者を招き、ドイツ語で講演して頂いた内容を参加者全員が順に日本語に逐次通訳した。講演終了後、録音を聞きながら講師、参加者から通訳内容やパフォーマンスに対する意見交換を行った。

講演者・テーマ

ー ルードヴィッヒスハーフェン専科大学 東アジア研究所教授 Frank Rövekampf 氏

「アベノミクス政策について」

ー ハイデルベルク大学日本学研究名誉教授 Wolfgang Seifert 氏

「ハイデルベルク大学の日本人留学生」

ー Wiesenbach 町議会議員・緑の党 Heinz-Ludwig Nöllenburg 氏

「交通政策について」

8) セミナーの内容と感想

2014年2月7日から9日にかけて第三回となる筑波大学主催日独通訳者セミナーがドイツ・ルードヴィッヒスハーフェン市で開催された。このセミナーは、2009年にハイデルベルク大学・会議通訳学科修士課程に日本語が加わり日独通訳を専門的に学ぶ学生がハイデルベルクに集まるようになったこと、加えて2010年に筑波大学がボンにヨーロッパ事務所を開設したことを機に、2011年から筑波大学ボン事務所の財政支援を受けドイツで行われている。本セミナーの主な目的は、合宿という環境で、さまざまなバックグラウンドを持つ参加者同士がお互いの通訳技術に対する意見交換を行い、集中的に通訳技術を向上させること、さらには通訳者同士のネットワーク形成と言う目的もある。既にプロの通訳として活躍している方々にとっても、プロなった後はなかなか得る機会のない他の通訳者からのフィードバックを聞くという面からも貴重な機会であったと思う。

主な参加者は、日独両国で第一線で活躍する日独通訳者、ハイデルベルグ大学在学学生・卒業生、ベルリン日独センターの通訳勉強会参加者など、多彩な参加者が集まった。今回は日本からも日独通訳の第一人者であり、日本での通訳者養成セミナーの中心メンバーでもある桑折千恵さんを講師にお招きした。第二回までは10月に行われていたが、今回は通訳者の繁忙期やハイデルベルグ大学通訳学科の卒業試験時期を避けるなどの理由から初めて2月に開催された。前回までは参加者が各自の母語で用意したスピーチを行いそれを逐次通訳していたが、今回外部から講演者を招いて、ドイツ語で講演して頂いた内容を参加者が順に日本語に逐次通訳し（2～3分程度）、講演終了後に録音を参加者全員で聞きながらフィードバックを行った。

第一日目は到着後、オリエンテーション、自己紹介、ウォーミングアップのゲームや数字の通訳練習などを終えた後、早速最初の講演者 Röverkampf 教授をお招きし、「アベノミクス政策について」をテーマに講演頂いた。（講師、参加者の雰囲気作りのおかげで、この時には初対面の参加者同士も打ち解けた雰囲気になっていた。）経済の専門用語も多用されるテーマであり、準備期間も短かったことから参加者にとって簡単なテーマではなかったが、果敢に取り組んだ。フィードバックでは、仮に完璧な通訳が出来ないときにどのような解決方法があるかと言う課題や、必ずし

も起点言語で話された順番でなく、メッセージを理解してまとめて訳出する重要性などが指摘された。さらには話の中で「標識」となる言葉、例えば「実は」「さて」など話の展開を指し示す言葉に注意を払い、スピーチの流れを掴む事が大切であるなど、実地の通訳や通訳訓練で今後必ず生かされるであろうたくさんのヒントが飛び交った。

2日目はがらりとテーマを変えて **Seifert** 教授の講演「ハイデルベルグ大学の日本人留学生」が行われた。1920年代以降ハイデルベルグ大学に留学した日本人学生と、彼らのハイデルベルク留学が日本に与えた影響を検証した、**Seifert** 教授の同名の著書に基づく講演だ。哲学用語や歴史的背景知識を要求されるテーマで前日とはまた異なる、大変取り組みがいのあるテーマであった。フィードバックのなかでは、日独通訳者として近代史の深い知識は必須であること、さらには近代史用語を日独対応で正確に覚えておく必要があることなどが挙げられた。

3日目の講演は **Wiesenbach** 町議会議員 **Nöllenburg** さんによる「交通政策について」。スマートモビリティなどの言葉が注目されるなかで、日独通訳者にとっても必須のテーマのひとつであると思う。3日目の講演となり参加者同士お互いの「通訳の癖」も分かり始め、出だしについてしまう言葉の癖を指摘される参加者もいた。このような指摘は、合宿と言う集中的に学ぶ場だからこそ得られるものであり、とても貴重だと思う。

全体としては、「話者のメッセージを理解して、自分の言葉で訳出する」という通訳の基本であるが、細かい表現などにとらわれ忘れられがちなことが繰り返し強調されていた。フィードバックでは議論が尽きることなく、1日目、2日目は、22時ごろまで熱心な議論が続いた後、時間切れとなってやむなく終了するほどであった。その後も談話室に場所を移してさらに交流が続いた。

私自身はハイデルベルグ大学会議通訳学科で通訳訓練を受けているが、授業とは違う環境で、普段とは違うメンバーからの違った角度からのフィードバックを頂くことが出来、とても有意義だった。今回は参加者が多かったこともあり一人の通訳時間は2~3分程度であったが、その短い通訳に対し驚くほど多くの指摘を頂くことが出来、それを今後の通訳訓練のなかでぜひ活かしていきたいと思う。さらには、通訳技術以外にも「日独通訳者としての必須知識」を深めることの必要性も改めて痛

感じた。加えて、授業では録音教材を用いることが多いので、実際の講演を通訳する楽しさを改めて実感した。食事のときや、談話室でのざっくばらんな雰囲気の中で第一線で活躍するプロ通訳者の方からアドバイスを頂くことも出来、とても勇気付けられた。

このような機会を提供して下さった、相澤先生をはじめとする筑波大学ボン事務所の皆さまに心より感謝申し上げます。今後もこの日独通訳者養成セミナーを日独通訳者の切磋琢磨の場・交流の場として発展させていきたいと思う。

以上